

C型肝炎治癒後の発癌症例に対する肝切除の意義について

都立墨東病院 1 外科、2 消化器内科

脊山泰治 1、鹿股宏之 1、浅野徹 2、忠願寺義通 2、工藤宏樹 1、那須啓一 1、稲田健太郎 1、和田郁雄 1、真栄城剛 1、宮本幸雄 1

【目的】C型肝炎治療へのDAAの導入により、肝癌切除症例でも以前は頻度が少なかったSVR症例が増えてきた。しかし、SVR達成後の発癌症例に対する肝切除術の臨床的像は明らかになっていない。今回我々は、当院におけるC型肝炎SVR後の肝癌切除症例について検討した。【方法】2001年から2016年8月までに当院外科で初回切除したC型肝炎を背景とした肝細胞癌135例のうち、肝切除時にSVRであった26切除例中、再肝切除を除いた22症例を対象として臨床的像を検討した。SVR後初回発癌症例群と、肝癌切除後にSVR達成した症例群を比較検討した。【結果】頻度：SVR症例は、2001～12年では91例中11例(12%)であったの対し、DAA導入後の2013～2016年8月では45症例中15例(33%)と増加し、7例がDAA使用症例であった。経過：SVR後初回発癌が15例、肝癌切除後SVR達成し再肝切除した症例が7例であった。SVRから肝切除までの期間はSVR後初回発癌群で中央値72ヶ月(2-240ヶ月)、肝癌切除後SVR群では中央値30ヶ月(11-60ヶ月)であり、いずれも長期間経過後の発癌が多かった。SVR達成後10年以上も4例あった。腫瘍径：SVR後初回発癌群では中央値22mm(8-105mm)、肝癌切除後SVR群では中央値15mm(10-24mm)とほとんどが30mm未満であったが、10年以上経過後に再発した症例では85mm, 105mmと2例で巨大肝癌であった。生存成績：全体の5年無再発生存率は78%、5年全生存率は89%と良好であり、SVR後初回発癌群と肝切除後SVR群で差はなかった。22例中死亡イベントは3例であったが2例は他病死であり、肝癌による原病死は1例のみであった。再発に対して積極的に再肝切除が行われていた。【結語】SVR達成後長期間に渡って発癌する症例があるため、経過観察は必須である。SVR後の発癌に対し肝切除は有効であり、積極的治療で長期生存が得られた。